



公益社団法人 日本山岳会

## 宮崎支部報

第69号



## 第35回全国支部懇談会に参加して

潤沼にて

事務局長/副支部長・都甲 豈好 (12057)

第35回全国支部懇談会は、栃木支部主管で令和元年5月25日～26日の2日間に亘り、全国の支部から160人が参加し盛大に開催された。次年度の開催予定が宮崎支部主管となっていることから、見るもの聞くものの全てが興味深い懇談会となった。

第一日目は、13時から日光自然博物館で、栃木支部長・渡邊雄二氏の主催者挨拶で始まり、日光市長・大嶋一生氏、日光自然博物館の代表取締役・小林博氏の挨拶が続いた。13時30分から栃木県立博物館協議会会長・飯野達央氏による「近代登山とアーネスト・サトウ父子の日光への山旅」と題した記念講演を拝聴した。講演の内容を要約すると、近代登山は、山々からの眺めを楽しむ英国の「ピクチャレスク嗜好」とスポーツの結びつきにより発祥したといわれている。このため、日本における近代登山の扉は登山家で宣教師であったウォルター・ウェストンなどのイギリス人に影響を受けて開かれていった。英国人外交官であったアーネスト・サトウもウェストンに先駆け、北アルプスや南アルプスそして日光連山の山々を踏破し、日本に近代登山を導入した先駆者のひとりである。サトウがはじめて日光を訪れたのは明治5年3月である。サトウの滞日期間は通算25年に近く、明治4年頃に武田兼と結婚し2男1女をもうけている。次男は植物学者で、明治38年の日本山岳会設立時の7人のメンバーのひとりで、のちの日本山岳会第6代会長を務めた武田久吉である。

講演の主人公「アーネスト・サトウ」が日本に近代登山を導入した先駆者のひとりであったこと、次男「武田久吉」が日本山岳会第6代会長であったことを拝聴でき感銘を受けた。15時から事務連絡や館内見学のと、懇親会会場(日光アストリアホテル)へバスで移動し、18時30分から懇親会となった。栃木支部顧問・坂口三郎氏の挨拶の後、日本山岳会会長・小林政志氏の挨拶があり、日本山岳会副会長・重廣恒夫氏の乾杯で祝宴に入った。各支部から提供された銘酒を堪能しつつ、会場は他支部会員との交流等で次第に盛り上がっていった。終盤になると北から順番に参加支部会員が紹介された。宮崎支部は15人の参加者全員が会場前列に並び、荒武支部長が次回の第36回全国支部懇談会を宮崎で開催する意気込みを述べた。栃木支部副支部長の言葉で一次会が終了し、希望者は二次会に参加した。

二日目は、登山コース、観光コース、自由行動に分れ、宮崎支部は全員が交流登山に参加した。コースは湯元登山口～切込湖・刈込湖～潤沼～山王峠の行程で所要時間約5時間であった。宮崎支部は、遅れはしたが栃木支部・仙石富英氏のリードのお陰で全員無事に山王峠に到着した。九州の山とは趣の異なる奥日光の豊かな自然を満喫できたことに感謝したい。三日目は、全国支部懇談会記念登山として大菩薩嶺、四日目は、三ツ峠山を楽しんだ。



## 第35回全国支部懇談会記念登山 大菩薩嶺(2057m)、三ツ峠山(1785m)

橋口三枝子(14885)

### 5月27日(月) 大菩薩岳(大菩薩嶺)

奥日光での全国支部懇を終え、4時間ほどバスで移動して山梨県にある大菩薩峠へ。天気も最高、出発前のホテルからも富士山を見ることができ早くも期待に胸が弾む。ホテルを8:00出発。今回は会友の平井喜久枝氏(首都圏)の参加もあり、この山も熟知されていることからいろいろと話を聞く事ができた。15名で上日川峠の登山口を9:30出発、ブナやミズナラなどの林の中、緩やかな車道を登り福ちゃん荘に着く。ここが唐松尾根との分岐になっていて右側の大菩薩峠のコースを登る。ササの茂みの中に2匹の鹿とも出会う。人なれしているのか逃げる気配もなく和ませてくれる。疲れも見えたところで平井氏より大きいカリカリ梅の差し入れが美味しく元気が湧く。介山荘のある大菩薩峠に11:10に着く。峠からは遠くに雪をかぶった南アルプスや八ヶ岳が連なる展望に皆、大歓声。ここから先は、初夏に沢山の花を咲かせると聞いたが今は見られなかった。10分程、急登のガレ場を登ると圧巻の富士山が現れ、またまた感激。雷岩と呼ばれる山稜で昼食。ちなみに雷岩は、雷雲の通り道だったことから名付けられたそうだ。ここが唐松尾根の分岐になっている。山頂までは、コメツガ、カラマツの林の中、木の根や石に注意しながら約10分で着く。山頂(2057m)は樹木にさえぎられ展望はないが心地よい空間となっている。分岐に戻り唐松尾根を下る。13:35ガレ場の急坂を慎重に下る。しばらくすると緩やかな傾斜となり歩きやすくなる。カラマツ林が素晴らしい。九州ではほとんど見ることはない風景にシャッターを何回も押す。唐松尾根はこのカラマツ林から名付けられたのだろうか? 福ちゃん荘で一休みして、登ってきた道を歩き登山口の上日川峠に着く(15:00)。素晴らしい登山に大満足の1日であった。今回は、体調と相談しながら大菩薩峠まで登られた谷口さんご夫妻の岳人としての頑張り、ど根性にも感心させられた。

### 5月28日(火) 三ツ峠山(開運山)

記念山行2日目は三ツ峠山へ。朝から曇りで予報では夕方から雨になるという。ホテルを8:00出発、リニア新幹線の線路を見ながら進むと、いきなり目の前に雄大な富士山が現れ一斉に大歓声。今回は最短で行ける三ツ峠登山口から登る。帰りの時間もありリーダーより「14:00には登山口に帰着を」と強く言われる。登山口9:00。コースもはっきりしているので13名がそれぞれの体力に応じて登ることになる。我々7名が先発で頂上目指し登る。コースはとて歩きやすくミツバツツジ、ボケの花、そしてサクラも見ることができた。小学生の団体も元気よく登っている。時間や天気が気になりペースも上がり息が上がる。展望台に10:20着くが、あいにく富士山の半分は雲の中、それでも嬉しい。ここで末永さんが登ってこられた。次第に雲行きが怪しくなる。降らないでと願いつつ電波塔のある山頂を目指す。あと5分もあれば山頂というところで本格的な雨となり雨具着用。山頂(10:45)に到着したとたん強い風。しっかり踏ん張らないと吹き飛ばされそうになる。急ぎ記念写真を撮り早々に下山。思えば山頂の電波塔も目に入っていなかった。大きな石に刻まれた三ツ峠だけが印象にある。強風は山頂ですぐに小雨となる。四季楽園の小屋からはロッククライミングとしても有名な屏風岩が圧巻だ。展望台に着くころには富士山も少し顔を出していた。余裕も出てくると緑がまぶしく目に入り見入ってしまう。途中、谷口敏子さんが下山されていて合流する。12:15無事登山口着、雨もすっかり止んでいた。三ツ峠山は富士山を眺めるには一番いい山だと聞いていたので山頂から見ることはできなかったのは残念だが、運転手さんの計らいで展望のいい所で停車してもらい、雲はかかっていたもののしっかり堪能することができた。素晴らしい仲間と楽しく山旅できたことに感謝。



福ちゃん荘前



三ツ峠山 山頂



## [4月定例山行] 御在所岳 (530.4m) 4月20日(土)

## 天智天皇伝説の山

今回目指す山は志布志の御在所岳。20℃超えの素晴らしい天候に恵まれて産経大駐車場を予定通り7:00に出発。トイレ休憩を挟んで国道269号線を走り、都城経由で御在所岳登山口に到着。8:50服部会員を先頭に19名が意気揚々と登り始めた。途中ヘビに遭遇したり、前原会員が倒れている木や垂れ下がっているカズラなどを切って歩き易くしてくれた。亀岩を10:00に通過。木漏れ日と新緑の美しさに魅了されながら、山宮跡を通過、15分程で頂上を11:10に制覇! 下山の道すがら珍しいギンリョウソウやハルリンドウに癒されながら予定より少し早目の13:25に登山口に到着した。帰りに金御岳展望台に寄って、春と山を十分満喫した。私は二度目の参加であったが、本格的な登山は久しぶりだったので本音はきつかった。

中武 照子 (A014)

志布志記によると天智天皇の時代、宮中で天皇にお仕えする采女として全国から美女が集められた。天皇は其中で薩摩の国穎娃開聞の里の娘玉依姫を深く見初められて第二の後(女御)とされた。しかし、故あって玉依姫は都を去り穎娃開聞の里に帰られた。

天皇は姫のことを忘れられずお忍びで九州の地を訪ねられた。姫の住む穎娃の里を直接訪ねることをはばかれた天皇は、穎娃の里が見える山熊山に暫く住まわれた。この伝説をもとにこの山は後に御在所岳と呼ばれるようになったと伝えられる。

< コースタイム > 宮崎産経大駐車場発7:00ー登山口8:50ー亀岩10:00ー山宮跡10:50ー山頂11:10ー登山口13:25

< 参加者 > 19名: 清家順子・谷口敏子・多田登美子・服部澄子・永友友美・栗巣タツ子・中武照子・前原満之・荒武八起・都甲豈好・乾正太郎・日高研二・末永軍朗・武田芳雄・多田周廣・畑島良一・四宮林三・福島龍好・永友直隆



山宮跡



タツナミソウ



亀岩



ギンリョウソウ



ハルリンドウ



## [5月定例山行] 遠見山(254m) 5月12日(日)

## 宮野浦八十八ヶ所お遍路トレッキング

服部岩男(13833)

ヤマダ電機を6:30に出発し都農道の駅で休憩。門川インターで高速道路に乗り、8:55宮野浦港の公園到着。9:20に巡礼を開始する。宮野浦八十八ヶ所の由来は、宮野浦地区で疫病や火災が頻繁に起こったことから、四国八十八ヶ所の土と延岡で刻んだ石仏を搬入したのが由来とされる。番所ごとに意味が理解できない別々の呪文が下げてあり、それを唱えながら各番所を巡る。参道にはロープや梯子などは全く無く、良く整備されていて、子供や高齢者でも安心して昇り降りができる。47番位で海岸に近くなったので波打ち際まで下りて、それぞれに岩陰で昼食をとる。海の水が大変澄んでいて、弁当がより美味しく感じられた。昼食後12:30に出発。途中で島野浦島が見下ろせる絶景ポイントが数か所あった。海岸をすぐ近くに見ながらの山行は他には先ず無い。私は自分と同じ年齢の78

番札所で丁寧にお参りし、身を悔い改め心も清めた。他にも自分にゆかりのあるそれぞれの数字の番所でそうした人が多かったようだ。80番位で砂浜に出る。87、88番札所は市街地の中にある。88番札所で最後のお参りを済ませて、駐車場に戻る。15:30出発。北浦の道の駅で買い物をして18:00にヤマダ電機に到着。今回の山行はプライベートではなかなか思いつかない企画で、最高の心霊スポットを巡ることが出来て大変良かった。

<コースタイム> 宮崎発6:30ー宮野浦港着8:55/巡礼開始9:20ー巡礼終了14:20/宮の浦発15:30ー宮崎着18:00

所要時間: 5時間12分、総距離: 12km、最高点: 202m

<参加者14名>

拵 恵子・清家順子・服部澄子・橋口三枝子・蔵屋とよ・荒武八起・日高研二・多田周廣・櫻木勉・服部岩男・弓削達雄・畑島良一・四宮林三・平田五男



2番札所過ぎの遍路道



27番札所付近からの日豊海岸



47番札所の手前で海辺に下りる



## [6月定例山行-1] 白岩山(1646m)・向坂山(1684m) 6月9日(日)

## 新緑と害虫被害 高橋節代(A009)

雨の晴れ間、山中気温14度、樹々の間から抜ける涼風が気持ち良く、ブナ林や豊かな高山植物の説明を聞きながら紅葉の季節に思いを馳せる最高に楽しい登山であった。しかし、近年の動物・病害虫の被害で未来を担う若木を含む林帯が裸地化したり、ブナの葉が葉脈のみを残した状態を目の当たりにした。また山中に捨ててあるゴミに登山する者の不条理、そのゴミを拾いながら下山される方への尊敬の念を抱き、この新緑が、尾根が、高山植物が来年も、その先も存在し続けるように一日も早く警鐘を鳴らすべきだと痛感させられた有意義な一日でもあった。登山経験の浅い私であるが、3名の紳士に終始リードしていただき、2座に登頂できた。次回は紅葉の季節に皆様と白岩山、向坂山に元気をもらいたい。

## &lt;コースタイム&gt;

宮崎発6:00-白岩登山口発(ゴボウ畑)9:18-白岩峠着(杉ヶ越、向坂山分岐)9:45-白岩山石灰岩峰植物群落着10:25/発10:45-白岩峠着11:18-向坂山頂着11:56/昼食後下山開始12:30-五ヶ瀬ハイランドスキー場着12:45/発12:58-白岩登山口着13:30-帰路、うのこの滝、五ヶ瀬ワイナリーに寄り、宮崎着17:43。

<参加者>5名: 高橋節代、米満美保、前原満之、日高研二、畑島良一



## &lt;森林保全巡視情報を提出&gt; 前原満之(9878)

今回の山行で気付いた虫害について、自然保護の観点から、委嘱を受けながら今まで提出をしていなかった森林保全巡視情報を九州森林管理局に提出し、返答をいただいた。

## 森林保全巡視情報(抜粋)

登山の途中、稜線のブナに葉がついていないので、芽吹きが遅いのかなと思っていました。ところがブナの幹にかなり多くの虫がいて、ゾロゾロ登っているのに気づきました。そこでブナの枝をよく見ると、葉を虫が食べたため裸木となっている事がわかりました。これは大変なことです。ブナが全滅してしまいます。若いブナが裸木になっているのもあります。また腐朽していないブナの大木が立ち枯れしているのもあります。不思議な事に

ミズナラ等にも虫がついているようですが、ブナのような裸木は見当たりません。被害はブナだけではないかと思われます。虫は爪楊枝ほどの太さで長さは2センチぐらい、色は緑っぽかったようです。虫害で葉がなくなった後、ブナは再度芽吹くかもしれませんが、しかしそれを食われたら枯れてしまうのではと危惧しています。防除は空中からの薬剤散布でなく、直接虫に薬剤を散布するのが効果的かと思いますが、かなりの手間がかかるかと思えます。しかし大事なブナです。ぜひ守っていただきたいと思っています。

## &lt;九州森林管理局からの返答(抜粋)&gt;

貴重な巡視報告ありがとうございました。今回いただいた情報のブナの葉の食害ですが、「ブナハバチ」の幼虫による被害とのことです。平成24-25年ころから当該被害が目立つようになり、既に熊本県境でも被害が拡大しているようです。このようなことから、平成29年3月に宮崎県、関係市町村、有識者、森林管理局、森林管理署で検討会を開催しております。現在、被害区域、被害・発生状況などを継続的に経過観察し、その結果を踏まえて具体的な対策を検討していく予定です。

## &lt;その後のインターネット情報&gt;



ブナハバチ幼虫



衝突板トラップで成虫捕獲



粘着トラップで幼虫捕獲



ブナハバチ成虫

「霧立越」周辺の森林で、ブナの葉を食べる「ブナハバチ」が大量に発生している。この影響で多くのブナが枯れており、生態系への影響が懸念される。

ブナハバチは、幼虫がブナやイヌブナに寄生する食葉性のハチで体長約2センチ。成虫は4月下旬に葉の裏側に産卵し約1週間であらゆる幼虫は葉を食べてさなぎになる。羽化は翌年とは限らず2、3年後のことも。霧立越では2012、13年に発生し、今年再び大発生した。(毎日新聞 2016/6/3 記事抜粋)

## 【6月定例山行】 都井岬・扇山(295m)6月15日(土)

## 野生馬が悠々と草を食む宮崎の誇る名所都井岬

前日より大雨で大変心配し、当日も自宅出発まで雨の中だったが、途中9時頃より一面青空になり心も浮き浮きしてきた。車窓から見る美しい海岸線。打ち寄せる大きなうねりの白波、その波に乗るサーファー。奇岩。素晴らしい景観だと改めて見飽きることがなかった。駒留から岬までは、今を盛りの紫陽花ロード。ロードの両側を埋め尽くす水色や紫色、深い藍色の紫陽花が山の斜面のみどりと、見下ろす青い海のはざまを縫ってずっと続けている。雨上がりの紫陽花は何とも瑞々しい。様々に色を変えて幾重にも重なって広がる太平洋。皆「綺麗」「きれい」の連発。ここ都井岬では御崎馬が生息し、地元の組合が管理しているそうだが、最近では疾病、事故、飼料不足などで頭数が戦前の半数に減少しているとか。現地の人たちだけに任せず、県民、国全体の問題として考えていくべきではと思った。9:50歩き始める。登山道は整備されていて歩きやすく、赤い沢蟹を見つけたり、ウグイスの澄んだ声を耳にしながら歩いた。この辺りから山頂までずっと小さな石仏が山頂を囲んで立っていた。この石仏は88ヶ所を表しているらしい。山頂

日高恵子(A012) 日高キヨ子(A013)

で強風に煽られながらの昼食、それでも眼下に広がる海原が心を満たしてくれた。帰りは畑島さんの友人宅に案内されて、フルートの演奏を聴きながら、美味しいコーヒーをいただいた。さらに、多趣味で個性的な生き方をされていることに刺激をもらい、贅沢な癒しの時間を満喫した。

<コースタイム> 宮崎産経大駐車場7:10ー都井岬着9:30ー登山開始9:50ー昼食11:20ービジターセンターー渡辺氏宅ー宮崎産経大駐車場16:05着

<参加者>8名 久我慧子・谷口敏子・日高恵子・日高キヨ子・谷口菊美・武田芳雄・多田周廣・畑島良一



## みやざき県民総合スポーツ祭山岳競技(尾鈴山)に参加して

川越 政則 (16430)

令和元年度みやざき総合スポーツ大会山岳競技が尾鈴山で開催された。私は宮崎山岳会と日向わらじ会合同チームのメンバーとして参加したので、その概要について述べる。チームは3人の選手から構成される。競技は体力を競う縦走競技と山に関する知識を問う踏査競技からなる。縦走競技は尾鈴山登山口から5合目までの所要時間、踏査競技は山に関する10の設問の正解率で評価され、両者の総合点により順位が決まる。競技は一日目の6月1日に実施され、翌2日は交流登山の後、表彰式が行われた。

## &lt;6月1日&gt;

6:00~6:30 受付(尾鈴山キャンプ場)、6:30~7:00 開会式、7:00~7:15 リーダー会議、7:30~8:30 キャンプ場スタート。林道を登山口まで徒歩で移動する。ウォーミングアップにしては少し長く汗ばんだ。8:30~9:50 負荷重量計測。60歳未満 9kg以上/60歳以上6kg以上。9:00 各チーム5分間隔で出発。9:30 尾鈴山5合目ゴールに到着。11:00 尾鈴山山頂に到着。負荷重量計測し昼食。12:10 宮崎チーム(日向わらじ)スタート。長崎尾~分岐点を経由し、ポイントを探しながら林道尾鈴登山道入口へ到着。他のチームが「時間がない」

と言って追い越して行ったため我々も焦って先を急いだ。ウグイスが「急ぐな。危ないぞ」と鳴いて気持ちを落ち着かせてくれた。最後に設問に挑んだ。設問は予測していなかった読図があり焦った。その上に時間が迫ってきたため正確さに欠け惨敗であった。タイムリミット、ギリギリでゴールラインを踏んだ。尾鈴山登山道入口から林道を徒歩でキャンプ場へ到着。やっと肩の荷が下りホッとした。結果は総合2位で1位との差0.3の数字に涙をのんだ。来年こそはと新たな決意をした。

全般には女性群が非常に元気であったことと都城チーム、日南チームは事前に下見を2回も全員で行ったとの事。また当日は両チームとも応援のために定例会を尾鈴山登山に合わせたとの事を聞き感激し、団結力に涙が出た。さらに、「来年は誰と誰が選手だね」と口々にされている。そんなチームだから元気で意気揚々なのだと思います。決して若くはないが考え方、取り組みに我々のグループに何かを教えてもらった。本当に勉強になった大会であった。

## &lt;6月2日&gt;

交流登山として、キャンプ場から白滝まで往復した後、キャンプ場で表彰式が行われ、お互いの健闘を称えた。

## 宮崎の自然 ツチビノキ

石井 久夫 (5120)

県内に生育する植物の中で固有種というものがあ  
るが、中でも特に珍しいものがある。えびの高原のノ  
カイドウ、尾鈴山のキバナノツクヌケホトギス、鬼の  
目山のツチビノキはいずれも世界的に珍しい特産種  
と言われている。

鬼の目山と鉾岳と大崩山系の標高1,000mから  
1,200mのツガ林とブナ林に沿う谷の斜面にツツジ科  
のヨウラクツツジやアケボノツツジと混生して、特別の  
群落を形成しているのがツチビノキであり、世界中で  
宮崎にだけ生育する。

ツチビノキは1936年8月、北川町祝子川から榎峠・  
鬼の目山に向かう途中の落水の滝上方で発見され  
新種として基準標本となった小灌木で花崗岩地帯の  
溪谷沿いの湿気の多い林中に生育している。樹高  
1m前後の落葉低木で、葉は束生状、倒卵形で長さ  
約18cm、無毛で互生する。7~8月頃に頂に小頭状  
の5~20mmの花柄を出す。花は白から淡紅色でジ  
ンチョウゲの花に似ている。枝は割りと太くて少ない。  
果実は乾果状の石果である。ツチビノキはジンチョウ  
ゲ科シャクナンガンヒ属の仲間屋久島のシャクナン  
ガンピと共に特産種である

&lt;メモ&gt;

ツチビノキ

(Daphnimorpha,  
Capitellata NAKAI)

ジンチョウゲ科の夏緑  
性低木で樹高は1m前  
後で葉は薄く長さ5~  
18cm、幅2~7cm。6月  
頃に桃色の花を茎頂に  
付ける。鬼の目山の花  
崗岩地帯のみに生育す  
る。タイプ標本は鬼の目  
山で1936年8月4日に吉  
江清朗氏が採取。

参考資料: 宮崎県の生  
物、宮崎県高校教育研  
究会理科生物部会編



## 第36回全国支部懇談会成功をめざして

荒武 八起(10735)

全国支部懇談会は、各支部の持ち回りで毎年実施  
されており、今年は栃木支部主管で奥日光、昨年は  
北海道支部・大雪山、一昨年は茨城支部・筑波山で  
した。そして、来年(令和2年)の第36回は宮崎支部が  
担当することになりました。宮崎支部は1986年(昭和61  
年)に第4回を担当していますので、今回で2回目とな  
ります。既に2回目を担当した支部は、静岡、東海、北  
海道、越後の4支部です。

全国支部懇談会は、全国の会員との交流を深め、  
日本山岳会の活性化と発展を目指すという目的で開  
催されています。全国から150名余の会員が一堂に会  
し、山について語り合えることは何にも代えがたく意義  
深いものです。全国から参集される岳友に宮崎の山  
をはじめとした自然、歴史、風土について理解して頂  
く最良の機会でもあります。宮崎支部は会員が50名足  
らずの小支部ではありますが、全員の力を結集して取  
り組めば、参加される全国の会員に満足して頂くこと  
が出来るものと思います。

開催場所について、支部会員に意見を聴取したと  
ころ、高千穂町/祖母山エリア、えびの高原/霧島山エ

アなどが候補として上がりました。いずれも宮崎を代表  
する山系ではありますが、全国からお出で頂くにはアク  
セスに難点があります。そこで、さらに検討したところ、  
宮崎近郊の山が良いのではないかという意見が多く聞  
かれ、最終的に双石山に決定しました。会場はANAホ  
リデイインリゾート宮崎を予定しています。記念講演は2演  
題(双石山に関する演題と日向神話に関する演題)、懇  
親会では郷土の民謡と会員による出し物を計画中です。  
二日目は双石山登山と日南海岸の散策コースを設定  
しております。現段階では未だ素案ですので、皆様か  
ら積極的なご意見を頂きながら準備を進めていきたい  
と思います。

準備段階はもとより、当日150余名の全国からの岳友  
をお世話するためには相当の労力が必要と考えられます  
ので、懇談会の運営が円滑に進行するように様々な  
役割を皆様全員に分担させて頂きたく存じます。既にこ  
れまでに準備委員会を4回行い、役割分担を起案した  
ところですが、一方的にお願いする事も多いと存じますが、  
第36回全国支部懇談会の成功のために何卒宜しくご  
協力ご支援賜りますようお願い申し上げます。



## [事務局だより]

## 支部行事予定

月別	行事名	期日	備考
令和元年7月	大幡山	7.20(土)-21(日)	小林市
8月	山の日関連事業	8.11(日)	市山協と共催
8月	横岳	8.17(土)	鹿児島県
9月	開闢岳	9.7(土)-8(日)	鹿児島県
9月	剣山	9.14(土)-16(月)	四国

## 支部会務報告(4月-6月)

月日		開催場所	人員	備考
4.3	平成30年度会計監査	宮崎市・市民活動センター	5	
4.4	総会資料作成	宮崎市・市民活動センター	8	
4.13	平成31年度通常総会	宮崎市中央公民館	48	当日出席30名・委任状18名
4.13	懇親会	宮崎市ひまわり荘	31	
4.13	第241回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	30	
4.18	第36回全国支部懇談会準備委員会(2)	宮崎市・市民活動センター	10	
4.20	4月定例山行・御在所岳	鹿児島県志布志市	14	
4.27	第36回全国支部懇談会準備委員会(3)	総務委員長宅	10	
5.9	支部役員・委員長等会議	宮崎市中央公民館	9	
5.9	第242回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	20	
5.12	5月定例山行・遠見山	延岡市	13	
5.25-26	第35回全国支部懇談会	栃木県	14	
5.27-28	大菩薩峠・三ツ峠	山梨県	14	
6.6	支部役員・委員長等会議	宮崎市中央公民館	8	
6.6	第243回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	22	
6.9	6月定例山行-1 白岩山/向坂山	五ヶ瀬町	5	
6.15	6月定例山行-2 都井岬・扇山	串間市	8	
6.15	宮崎市山岳協会総会	宮崎市	2	
6.18	第36回全国支部懇談会準備委員会(4)	宮崎市・市民活動センター	10	
6.28	支部報編集会議	宮崎市・市民活動センター	6	

## グループ山行等(届け出分)

月日	山座	場所	代表者	人数	日数	備考
4.21	遠見場山	延岡市 島の浦	武田芳雄	7	1	宮崎山友会
5.3-5	北ア蝶ヶ岳	長野県	畑島良一	11	3	麗山会
6.1	丹沢槍洞丸	神奈川県	畑島良一	6	1	麗山会
6.22-23	奥秩父甲武信ヶ岳	山梨県	畑島良一	8	2	麗山会

## 事務局からのお知らせ

1. グループ登山の届け出の厳守：グループで登山される時は事前に登山計画書を作成し事務局に提出して下さい。
2. 日本山岳会団体登山保険加入のご案内：山岳登山中の事故はもちろん、遭難捜索費用の補償、日常生活でのケガ、病気や介護、ガン等幅広い補償が受けられます。まずは事務局にご相談ください。

## 編集後記

5月の栃木県での「全国支部懇」は、来年度の宮崎での実施を控える我々にとってはとても参考になり、それぞれが一つ一つ具体的にメモを取り勉強してきました。先日の役員会ではそれらを確認しました。皆さんと一緒に協力し合ってやっていきたいと思います。よろしく願います。

今県内はどこに行っても紫陽花の花盛りですねー (Kuga)

## 乳母車 三好達治

母よー  
淡くかなしきものふるなり  
紫陽花いろのものふるなり  
はてしなき並樹(なみき)のかけを  
そうそうと風のふくなり

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 第69号

発行責任者：荒武 八起

編集委員：久峯 慧子(責任者)、拵 恵子、谷口 敏子、  
多田 登美子

事務局：都甲 達好

〒880-0926 宮崎市月見ヶ丘5-20-4

Tel, Fax 0985-53-0150

E-mail: [toko150@mivazaki-catv.ne.jp](mailto:toko150@mivazaki-catv.ne.jp)

口座：ゆうちょ銀行 記号17330-2 番号9336371

名義人：(社) 日本山岳会宮崎支部